

トランプ政権と中東

国際政治学者
高橋和夫

- *トランプ政策にみる「合理性」を考える
- *イスラエル大使館移転を巡る発言の狙い
- *ペンス副大統領とキリスト教福音派
- *エネルギー情勢を激変させたシエール革命
- *石油価格は国際政治に直結している
- *イランを嫌うトランプ政権の中核
- *マチス国防長官は政権の「カナリヤ」
- *オバマの対イラン政策を支えた人たち
- *シリア政策におけるトランプの本音
- *米国の対イラン交渉を注視する北朝鮮



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日はこの会では初めてでございますが、高橋和夫先生においでいただきました。放送大学でご存じの方も多いかと思いますが、大阪外国語大学を卒業され、その後、コロンビア大学に留学されて博士課程で学んでおられます。クワエートで研究生活をしばらくした後、日本に戻られまして長く放送大学で教員をされたということでございます。ちなみに今日が放送大学の籍が最後の日で4月からフリーになられるそうです。そういう意味で記念すべき講演を今日していただけるということです。中東問題はしばらく空きましたけれども、年初に藤原先生がいらっしゃったときも今年いちばん心配なのは中東であるというお話をされました。日本から

遠くでわれわれも情報がなかなか得られません。また、トランプ大統領がいるいろいろわれわれの予測のつかないような行動をあちこちでしておりますが、そういうことも含めて、中東はどこへ行くのか、トランプ政権はいつたい何をしようとしているのか、今日はじっくりお話ししていただけたらと思います。それでは高橋先生よろしくお願いたします。（拍手）

高橋 高橋でございます。今日はお招きありがとうございます。

放送大学では誰もいないスタジオでテレビカメラに向かってお話ししておりますので、本当の人がたくさんこんなにいるとたいへん緊張いたします。無事に務められればいいと思っております。皆さんが眠らないようなお話というの